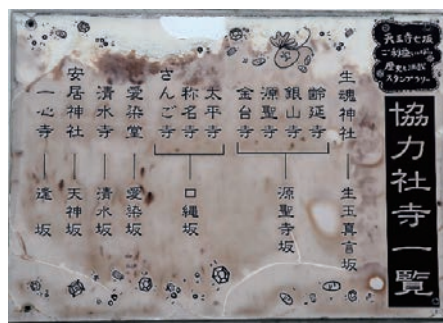


NO. 405
2023.12
2024.1

CENTER NEWS



目 次

辰年の年頭にあたり	寺西 一哲 …………… 1
11・12月定例理事会	…………… 2
第44期臨時総会開催報告	森 辰義 …………… 3
一般財団法人 全国地質調査業協会連合会 創立60周年記念行事	森 辰義 …………… 4
ミニ講習会参加報告	林 峻平 …………… 5
令和5年度3団体合同技術見学会参加報告	西野 真海 …………… 6
令和5年度3団体合同技術講演会開催報告	中山 義久 …………… 8
2023年度土科学センター財団講演会発表報告	中山 義久 …………… 9
文化財保護と工学技術【四方山話シリーズ】	西形 達明 …………… 10
かいしゃたんぼうきの趣旨	…………… 12
かいしゃたんぼうき《株式会社関西土木技術センター》	…………… 13
委員の独り言	北川 高行 …………… 15
編集後記	荒谷 賢一 …………… 16



表紙説明

先日9月30日（土）の午後、センター顧問大島先生と八谷専務理事以下6名が、JR天王寺駅⇒四天王寺⇒茶臼山⇒一心寺⇒「天王寺七坂」を先生の解説付きで巡りました。先日といっても、まだまだ暑かった時期、ゴールの鶴橋駅に着いたときはへろへろで、最後はお好み焼きとビールで締めくくりました。大島先生ありがとうございました。

- 上から1段目：逢坂（左）、天神坂（右）
- 2段目：清水坂（左）、愛染坂（右）
- 3段目：口縄坂（左）、源聖寺坂（右）
- 4段目：生玉真言坂（左）、「天王寺七坂」一覧（右）

（写真、文責：中山 義久）



辰年の年頭にあたり

理事長 寺西 一哲

皆様、少し遅れましたが、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。理事長を拝命しております寺西でございます。長かった「コロナ」から解放されほっとする気分です。

11月24日、第44期臨時総会を開催し、無事終えることが出来ました。その挨拶でも述べましたが、今のところ、利益・受注ともほぼ計画通りで、皆様方のご協力の賜物と感謝しております。しかしながら、上期は受注が低調で、下期の受注動向も不透明です。

さて、センターには30歳位までの若者が8名おり、その成長の一つとして、2023年9月の全地連「技術フォーラム」では三好君が優秀発表賞を戴いております。発表することにより、全体をイメージする力、文章表現力、プレゼンテーション力などが総合的に訓練され、その個人のスキルアップに繋がります。付加価値として、センターの知名度向上にも貢献しております。過去3ヶ年度のセンター売上額が3億円を超えたことも、彼らの若い力が大きく寄与しております。さらに、2023年度の地質調査技士試験に1名の合格者を輩出し、合計6名の資格者を有しております。若者達の成長は将来的なセンター全体の底上げとなり、今後も暖かく見守るとともに、最大限のサポートをしていきたいと思っています。

新たな人財の確保として、2023年4月に新入職員2名を迎え入れました。生産性の向上、および最適な年齢構成となるよう準備しております。来春の採用予定ですが、摂南大学の学生1名に内定を出しており、春を待ち焦がれるところです。センターの業務内容はまだまだ手仕事に頼る部分が多く、継続的な人財確保が必要です。

7月に圧密試験機10連を増設しました。コロナ禍での半導体不足の影響を受け、納品が大きく遅れていましたが、無事完了いたしました。今後、大阪万博に伴う大阪ベイエリア調査に絡む地盤調査発注が増えても、センターに圧密試験をご依頼頂ければ至急かつ確実に納品いたしますのでよろしくお願い致します。

また、6月に組織上の大きな変革として、八谷誠専務理事を迎え入れました。これまでとは違った眼でセンターの成長に尽力して頂けるものと確信しております。早速、八谷専務理事の主導のもと理事会の総意として「第四次中期経営計画」～土質試験業界のリーダーとなるために～を、先日の臨時総会で皆様方にご説明致しました。その基本方針は下記の5項目です。

- ① 安定的な経営基盤の確立（センターに任せて安心、および受注確保の安定）
- ② 顧客満足度の向上（センター出して良かったと、苦情ゼロを目指す）
- ③ 品質と生産性の向上（日本有数の設備とスタッフ、沈降読取り自動化の実務配備）
- ④ 技術力の向上と人財育成（土質試験管理者の問題点・課題に対応いたします）
- ⑤ ジオ・ラボネットワークとの協働（全国の基幹土質試験専門機関として）

またまた大風呂敷を広げましたが、「夢」に向かって邁進し、実現させることが、理事長の使命の一つです。目標達成には組合員をはじめとする「お客様」のお力添え、そして試験処理にあたる「職員・パート職員」の努力、さらに「理事会」のサポートがうまくかみ合うことが必須となります。「うさぎ」年から「たつ」年に移り、ピョンピョン跳ねることも元気でいいですが、グエイと鋭い眼で目標を見据え、確実にゲットする強い意志で、運営いたします。本年も皆様の更なるご支援とご協力をお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

11月 定例理事会

Regular board of directors

令和5年11月24日（月）12時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事9名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
10月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 10月分事業報告の件
- 3) 第44期臨時総会・講演会・懇親会担当確認の件
- 4) ジオ・ラボネットワーク経営懇談会・臨時会報告
- 5) 年末・年始の業務の件
- 6) その他の件

【審議事項】

- 1) 組合職員冬期賞与支給検討の件
- 2) 第44期通常総会開催日程・開催場所の件
- 3) 貸金関係について
- 4) その他の件
(1) 大阪府中央会、建通新聞年賀広告依頼について

12月 定例理事会

Regular board of directors

令和5年12月21日（木）14時00分より、ガーデンシティクラブ大阪会議室にて理事9名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
11月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 11月分事業報告の件
- 3) 第44期臨時総会費用精算の件
- 4) 小委員会開催報告
- 5) その他の件
(1) 令和6年度行事予定について
(2) 組合員企業移転について

【審議事項】

- 1) 貸金関係について
- 2) その他の件

第 44 期臨時總會開催報告

副センター長 森 辰義

11月24日（金）第44期臨時總會を大阪キャッスルホテルにて開催致しました。

司会者が開会を宣し、次に寺西理事長が挨拶を行いました。その後、竹内副理事長が議長に指名され、議事は滞りなく進められました。八谷専務理事より第四次中期経営計画が説明され、臨時總會は終了致しました。本臨時總會に引き続き、講師をお願い致しました当センター顧問澁谷啓様より、「新時代はこの未来だ！」というテーマで約1時間にわたりご講演を頂きました。

懇親会では、大阪府中小企業団体中央会の三宅部長様の挨拶のあと、一般社団法人関西地質調査業協会 奥田理事様の乾杯の発声で和やかに始まり、熱い歓談が行われ、盛会の内に終了致しました。



寺西理事長挨拶



当センター澁谷顧問の講演



中央会 三宅様の挨拶



関西協会 奥田理事の乾杯

一般社団法人 全国地質調査業協会連合会 創立60周年 記念行事

副センター長 森 辰義

令和5年10月20日（金）東京會館にて、一般社団法人 全国地質調査業協会連合会創立60周年記念式典が開催されました。当日は記念式典、記念講演会、記念祝賀会の順番に進行されました。

記念式典の中で、「地質調査業アクションプラン（行動指針）－混迷の時代を抜け出す次の一歩のために－」が柳浦様（現場環境改善委員会委員長）より発表されました。記念講演会では政策研究大学院大学特別教授家田仁様が「わからないから面白い～土木の視点から～」というテーマで講演され、参加者の興味を引いていました。又、功労者表彰では、当組合理事5名（寺西、窪田・藤井、八谷、四方（欠席））、監事2名（山本・竹末）、事務局2名（松川・森）が功労賞を受賞致しました。



（一社）全国地質調査業協会連合会田中会長 挨拶



記念式典会場（東京會館）



感謝状授与（松川センター長）



記念講演会（家田先生）

ミニ講習会参加報告

地盤技術室 林 峻平

2023年10月23日（月）、ミニ講習会を関西地盤環境研究センターの3F会議室にて開催しました。今年度も現地とWeb形式での参加という形で行いました。

講演内容は以下の3篇です

- ・沈降分析の自動化への試み（その4）

協同組合関西地盤環境研究センター 林 峻平

- ・岩石試験の紹介と試験における失敗エピソード

基礎地盤コンサルタンツ株式会社 長見 拓磨

- ・液状化危険度評価の比較

中央復建コンサルタンツ株式会社 佐川 厚志

私の発表内容は「沈降分析の自動化への試み（その4）」でセンターでは5年前より研究を続けている内容になります。Web形式で発表を行うのは初めての機会です。事前にZoomの使い方は教えてもらっていたのですが、いざ本番になると細かい操作の部分で焦ってしまいました。ただ昨年のミニ講習会後に課題に挙がった、Zoomでの発表が聞き取りづらいという点をマイクを増設してもらう事で解決できたのは良かったです。発表自体は練習のおかげかスムーズに行えましたが、その後の質疑応答で上手く答えることができなかったのが今後の課題としてできるようになっていきたいと思います。



発表中の私



懇親会の様子



令和5年度3団体合同技術見学会参加報告

地盤技術課 西野 真海

皆様お疲れ様です。センターの西野です。

10月24日～25日の2日間かけて、1日目は兵庫県豊岡市でコウノトリの郷公園、玄武洞公園、但馬地震の碑を観光したのち、2日目は北近畿豊岡自動車道のトンネル工事を見学させていただきました。

1日目のはじめはコウノトリの郷公園に行きました。ここではコウノトリの歴史について学びました。明治10年（1877年）ごろは日本全域で生息を確認できたらしいですが、明治22年（1889年）ごろには半分の地域でしか確認されなくなったようです。

理由としては、コウノトリのエサは湿った田んぼに多くあるため、その周辺を歩き回っていました。そして、この頃のコウノトリは田んぼの稲の苗の根を傷つけるなど農家にとっては害鳥だと考えられていました。明治時代は一般の住民も銃を持つことが許可されていたので、撃たれて処分されていたそうです。その後、太平洋戦争時に巣を作るアカマツが切られたことや米の生産量を上げるために農薬が使われ、農薬に含まれる水銀の影響によって弱って死んでしまったようです。

昭和41年（1966年）ごろには豊岡市でしか野生のコウノトリが確認できたり、その後も稲作の機械化のために乾いた田んぼに改良されてコウノトリのエサがいなくなりさらに減少していきました。最終的に昭和46年（1971年）に日本の野生のコウノトリは絶滅してしまいました。

一方昭和30年（1955年）ごろからコウノトリ保護運動を展開し、様々な苦勞があったものの、平成29年（2017年）には豊岡市以外で初の繁殖が徳島県で成功し、野外コウノトリは100羽まで到達し全国で飛来を確認されるまで回復したそうです。

コウノトリを初めて近くで見ましたが、羽をひろげると約2.2mもあるとても大きな鳥ですごく驚きました。中にはエサを効率よくとるために田んぼで耕しているトラクターの後ろをついて回るコウノトリもいてとても可愛かったです。

続いて、玄武洞公園に行きました。こちらは天然記念物に指定されており、1926年に京都帝国大学の松山基範博士が玄武洞にある玄武岩が現在と逆向きの磁性を持つことを発見し、「地磁気が逆転した時代があった」ことを1929年に世界で初めて発表したらしいです。方位磁石が現在は北向きに【N】を指しますが、【S】を指す時代があったということでしょうか？とても不思議に感じました。

1日目最後は但馬地震の碑を見に行きました。大正14年5月23日に発生した北但馬地震において、港村田結では83戸中82戸が全半壊し、村民65人が下敷きになりました。一瞬にして3か所から火が燃え上がったが、村民は救助より消火を優先して延焼を食い止めたのち、58人を助け出しました。この行動が「震災国日本における模範的な行動」と賞



賛され全国に紹介されたいです。

2日目は北近畿豊岡自動車道の見学に行きました。北近畿豊岡自動車道はⅡ期に渡って工事が行われており、これまで各事業の開通によって現在では城崎温泉から大阪市役所まで未整備だったときに比べて所要時間が約65分短縮されているそうです。今後、豊岡道路Ⅱ期まで開通した場合は所要時間がさらに約10分短縮されるそうです。これによって物流の迅速化が実現し、ズワイガニなどの但馬地域を代表とする生鮮食品の京阪神方面への輸送時間が短縮され鮮度保持・品質向上が期待できるほか、現在但馬地域には年間約580万人もの観光客が訪れ、入込客の8割以上が乗用車等を利用しているため、所要時間が短縮されることで観光の振興に寄与するなど様々なメリットが生まれるようです。

今回は北近畿豊岡自動車道の内、日高豊岡南道路の佐野トンネル工事現場を見学させていただきました。こちらは2020年11月に供用したのですが、その5ヶ月後の2021年3月に山本地区の切土法面に変状が発生したため急遽全面通行止めを実施したそうです。

現地調査を行った結果、特異な「椅子型すべり」であること、分布範囲や劣化程度の把握が難しい「白色凝灰岩」に起因する変状であることが明らかになったそうです。実際にトンネル内を見学させていただいて、白色凝灰岩の他に礫質土や固結粘性土等の脆弱な部分も多く確認できたり、白色凝灰岩を直接触ってみたりと貴重な経験ができました。

今回、初めて三団体合同見学会に参加させていただいて少し緊張しましたがとても楽しく良き体験ができたと思えました。次回も是非とも参加させていただきたいです。

ありがとうございました。



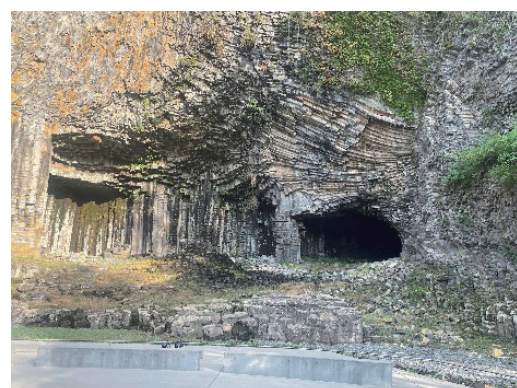
佐野トンネル内部



白色凝灰岩



コウノトリ



玄武洞



令和5年度3団体合同技術講演会開催報告

相談役 中山 義久

2023年11月17日 午後、大阪公立大学文化交流センターを主会場として対面67名、WEB：38名、計105名の参加者を得て開催されました。

今年のテーマは「西南日本における深部流体と地震・温泉」で、各講師の講演内容は以下の通りです。

益田晴恵先生（大阪公立大学教授）

近畿圏の深部流体起源とみなされる温泉水質と分布

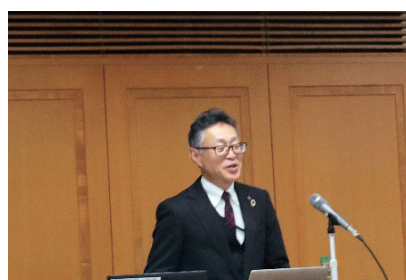
西村卓也先生（京都大学防災研究所教授）

測地データに基づく西南日本のスロースリップとプレート間固着分布

澁谷拓郎先生（京都大学防災研究所教授）

地震観測網でとらえた西南日本下のフィリピン海スラブの構造と深部流体

岩瀬信行技術委員長（関西地質調査業協会）が開会挨拶を行い、各講師による熱く丁寧な講演のあと、それぞれの講演に活発な質疑応答が行われた。三田村宗樹先生（大阪公立大学教授）の閉会挨拶で本年度の講演会は盛会裏のうちに幕が降ろされた。



岩瀬信行技術委員長



益田晴恵先生



西村卓也先生



澁谷拓郎先生



三田村宗樹先生



会場の様子

2023 年度土科学センター財団講演会発表報告

相談役 中山 義久

公益財団法人土科学センター財団は研究助成事業として、①土の安定化に関する学術研究や技術開発に対する助成、②土と関連のある社会的研究に対する助成、③土に関する学術会議、研究発表会、セミナー等の開催に関する助成を毎年行っています。

センターは2023年度分公募に「土の粒度試験（沈降分析）における浮ひょう読取りの自動化への試み」の研究助成を応募し、採択されました。その成果報告会が2023年11月28日東京都内で開催され、センターより三好功季職員が口頭発表を行いました。

特別講演として森林総合研究所 藤井一至様より「究極の土を求めて 土壌と土木を結ぶ」があり、同じ土でも分野が異なると研究の切り口が大きく変わることを具体的に、非常に分かりやすく説明して頂きました。

報告会内の質疑応答の時間は有りませんでしたでしたが、閉会后我々と同様に報告された大学の先生方と、短時間ではありましたが、土質試験業界の抱えている課題、将来的に考えるべき試験方法や技術開発について、熱く懇談出来ました。



財団代表 廣瀬様の開会挨拶



藤井一至様の特別講演



研究成果を発表する 三好功季職員



文化財保護と工学技術

協同組合 関西地盤環境研究センター

顧問 西形 達明

お城の石垣のよもやま話第3弾です。

熊本県山都町にある通潤橋（石造アーチ橋、1854年建造）が2023年9月に国宝に指定された。土木構造物としては最初で最後の国宝になるだろうと言われている。同橋は2016年の熊本地震によって生じた変状の修復中に、集中降雨（2018年）によって右岸アバット部が更に崩壊した。その修復に際してジオグリッドによる補強対策が取られている。

同じ地震によって熊本城も甚大な被害を受けたが、このニュースが現在のお城ブームの火付け役になってしまった感がある。その復旧事業では文化財の修復保存対策として、多くの現代工法の適用が試みられている。同時に「城郭石垣を地盤構造物として捉える」という極当たり前のようでそうでは無かった考え方により、円弧すべり解析やもたれ擁壁などの安定計算法が適用され始めた。ところが、これらの計算手法によると、普通に10mを超える高さで70°～80°の勾配をもつ石垣が安定するケースはほぼ無いといってよい。ただ、このような計算手法の導入は文化財を専門とする研究者に対して、石や土には粘着力や内部摩擦角といった大切な定数があることを知ってもらう良い機会にはなったようである。

「では、高さが優に10mを超える城郭石垣が建造以来400年以上も存続しているのは何故か」と常に問われ続けている。工学的な計算手法を石垣構造に適用することに何らかの無理があるのだろうか。文化財研究者もそのことに薄々気づき始めている中で、「地盤工学的手法に問題があるのではなく、安定に寄与する更なる極意（石積み職人の技能）が石垣の中に隠されているのだ」と主張するに留まっている。

確かに城郭石垣の安定要因には現在の工学理論によって説明することが困難な部分が多くある。この課題に地盤技術者が悩み続けている間に、通潤橋にも使用されたジオグリッドや地盤改良などの現代工法が城郭石垣の修復のための汎用工法になろうとしている。



写真-1 通潤橋の被災（右アバット部）



写真-2 熊本城石垣の倒壊

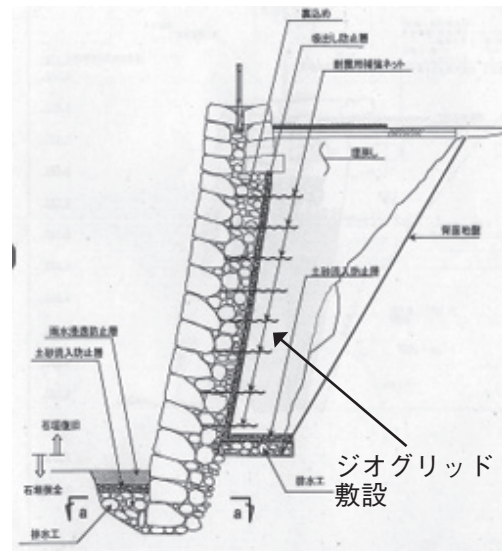


写真-3 石垣背面に敷設された補強のためのジオグリッド

たとえ石垣の安定計算には不十分な手法であっても、その結果が不安定と判断されると、安全率を 1.0 以上にするための何らかの補強対策を施さなければならないのである。城郭石垣の安定度が増して「安全と安心」を得ることができるのであれば結構なことである。一方で、外見からは分からなくても、我が国の多くのお城の石垣の中に現代の工業材料が含まれていると思うと、少なからずの違和感と喪失感をもつのは私だけであろうか。

文化庁のてびき¹⁾によると、城郭石垣がもつ文化財としての本質的価値は「歴史の証拠」と「安定した構造体」にあるとされ、それらの価値の評価指標として「形態・意匠」「技術」「地域性」「時代性」「精神性」の 5 つが挙げられている。現代工法の適用の結果が、将来に 5 つの評価指標にしたがって何かしらの評価を受けることになるのであれば、どのような評価を受けるのであろうか。

城郭石垣はその時々以最善と思われる技術で修復が繰り返されてきた。その歴史が現在の姿として残されている。「だったら、現代技術の利用も認められて然るべきではないか」という声が技術者側から聞かされることがある。しかし、修復を繰り返した当時の城郭石垣は「ただの石垣」であったが、現在では「文化財」なのである。「安全・安心」を盾に、むやみに現代技術を押し付けることは避けなければならない、と思い始めた今日この頃であるが如何であろうか？

¹⁾ 文化庁文化財部記念物課：石垣整備のてびき、2014. 4

²⁾ 四方山話第 1 弾 センターニュース 2016 年 7 月号 No.359

³⁾ 四方山話第 2 弾 センターニュース 2019 年 8・9 月号 No.381

新企画

「かいしゃたんぼうき」

本号より新企画を掲載します。その名も「かいしゃたんぼうき」。

センター若手職員が組合員の会社に訪問し、若手社員とのインタビュー形式で社風や会社PR等を好き勝手に談話する内容です。

企画の趣旨は、組合員賛助会員を合わせて50社を超え、知らない組合員を知って頂きたいとともに、自社の自慢もして貰いたいと考えています。また、センター若手職員は普段試験室に籠りがちなため、直接伺って取材することで、組合員の社屋、周辺地域の特徴、社風等を肌で感じてもらいたいと思っています。さらに、取材される組合員も、折角の機会なので若手をお願いすることを画策しています。

第一弾は、我が広報小委員会の委員長が所属する株式会社関西土木技術センターです。

ある日突然インタビューにお伺いしたい旨のメールや電話が皆様のもとへいくかもしれませんが、その際は宜しく願い申し上げます。



かいしゃたんぼうき

株式会社 関西土木技術センター

会社設立 昭和 47 年 3 月
所在地 京都市伏見区竹田中島町 5 番地
資本金 6,500 万円
従業員数 17 人
営業種目 建設業が必要とするあらゆる分野の調査計画の立案・
実施・解析及びそれらのコンサルタント、地質調査、
地盤解析、測量、土木設計、施工品質管理試験



Q.1 どのような仕事を得意とした会社ですか？



A.1 創業50年越えてます。また、
自社で試験室をもっています
ので、設計に必要な試験等を
自社で行えます。土木施工管理の試
験なども充実しております。



〈技術フロアー〉

Q.2 新規事業の予定等
とありますか？



A.2 4年前から地上レーザースキャ
ナー活用などICT関連業務の受
注もあります。三次元で管理
しようという話です。三次元の点群
のデータを処理するソフトがあるの
で、ノイズを消したりできます。投
資費用は1300万かかりました。舗装
修繕工事についてはまだまだ数件し
かないですが…。



〈試験室〉



〈3D レーザースキャナー〉

Q.3

社内の雰囲気は
どんな感じですか？

A.3

基本的には静かに業務をされていますが、独り言をいう方や雑談もあります。雰囲気はいいと思います。アットホームな感じの会社です。

Q.4

社員の方はどのような
方が多いですか？

A.4

基本周りの方は優しい方が多いです。なんでも丁寧に教えて頂けます。前職場は人に恵まれていなかったのが今の周囲の方はとてもやさしく見えます。

Q.5

御社に入って良かった
ことはなんですか？

A.5

昨年11月に入社しました。やりたいことをしたくてこの会社に入社して、やりがいがあり、周りの方たちがとても優しい方なので転職してよかったと思っています。



〈インタビュー風景〉

インタビューにご協力いただいたのは、技術第1部 小山航平さんです。ご協力ありがとうございました。

Q.6

資格の取得に力を
入れてますか？

A.6

社員の資格取得に関して、力を入れております。資格手当などは他社より金額が高いとおもいます。

社長の一言

センターニュースの新企画“会社探訪”のトップバッター！令和5年は阪神VのA.R.Eに沸いた一年。

当社も社員一丸となり「A.R.E」目指して頑張っていこうと思います。組合員、業界が一丸となり明るい未来を作り上げていきましょう！

皆さんからのご指導をいただきながら京都の地で頑張っていきますのでこれからもよろしくおねがいいたします。

京都へ来られた際は、是非ご連絡ください（^^）！。



代表取締役 社長
竹内 功

委員の独り言

姫路市出身の私は、石垣のある城を見ると「どれどれ、お手並み拝見…」と城を眺めては、「やっぱり姫路城が一番だな」と勝手にマウントを取ってしまいます（姫路市民特有の習性のようなのです）。

旅行先に城があると、本能に突き動かされたかのように見に行ってしまうのですが、最近は石垣の石材に注目しています。近くに山がある城では、石垣は基本的に地産地消のようで、その地域に固有の岩石を使っています。

左写真は徳島城の石垣、右写真は高松城の石垣です。徳島城の石垣は庭石にも愛好される青石（三波川変成帯の片岩）で、独特の片理構造が見て取れます。一方、隣の香川県にある高松城の石垣は領家花崗岩類からなり、赤みがかかった色をしています。同じ四国でもこの2城の間は中央構造線に隔てられており、地質構造が全く異なります。

隣同士の県でも、このように石垣には地域性が出るのです。それに気が付いてからは、城を見て「この石垣の材料は？どこから来たのか？」を考えるようになりました。見る視点が増えると、観光も楽しくなりますね。

（株東京ソイルリサーチ 北川 記）



徳島城



高松城

編集後記

大谷翔平の去就が世間を騒がせています。10年で約1000億円、単位を変えると0.1兆円(=1×108千円)。もう、国家予算レベルの域です。移籍先はロサンゼルス・ドジャースで、若い方には馴染みがないでしょうが、かの野茂英雄氏が在籍したチームです。それ以前にMLBでプレーした選手はいましたが、野茂英雄氏まで大活躍した選手はおらず、ここから日本人が続々とMLBでプレーするようになりました。まさに、「ゼロ」から築き上げた日本人メジャーリーガーのパイオニア(開拓者)だと思います。

様々な事柄で言えることですが、何かの模倣や焼き直しは比較的容易ですが、何もない状態から創造や発想、発起することは本当に難しいです。それを遂行できる人は「ホンモノ」だと思います。

広報小委員会では、皆様が業務の合間にでも本冊子を手にとって気軽にお読みになられたり、次号を楽しみに becoming 頂きたく、日々新たな企画を思案しています。今号から、「かいしゃたんぼうき」を掲載しました。この企画の趣旨や目的は本編の冒頭に説明していますが、できるだけ若手職員と社員を社外的な活動に参加して貰いたい想いで少し縛りを作った次第です。

委員長ということで、第1弾として弊社に白羽の矢が立てられました。誰もが初めてでもあり、取材した職員も受けた若手社員もノウハウが分からず、インタビューがたどたどしかったです。数回経験をしていけば、要領も掴め適材適所の対応ができるのかなと期待しています。編集側も締め切り直前までレイアウト等を試行錯誤してしまいましたので、これも数をこなす必要があるのかと思います。正直言って、第1弾の完成度は高くないことは否めません。

ただ、我々委員会としては、趣のある記事に仕上げたいと努力しておりますので、この場をお借りして皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。また、皆様方のご意見もお聞きできれば幸いです。

さらに今号では、顧問の西形達明先生に石垣のよもや話の第3弾を執筆して頂きました。加えて、センターには澁谷啓先生と大島昭彦先生の2名の顧問も在籍しています。少しでも多くの知識やお知恵を頂戴したいと、シリーズ化や特集コーナーができないかと企てています。

今後も、本冊子への愛着、よろしくお願ひします。

(荒谷 賢一 記)



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 エムアールソイル	(06)6195-6712	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 KGS	(072)279-6770	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)7175-8733	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	ビューエンジニアリング 株式会社	(088)665-7360
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)453-1000	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
大日本ダイヤコンサルタント 株式会社 江坂オフィス	(06)6339-9141	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

【賛助会員名簿】

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6531-3326	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077	有限会社 ビュアソイル	(072)440-5137

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター

編集 広報小委員会

〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号

編集責任者 八谷 誠

TEL 06-6827-8833 (代)

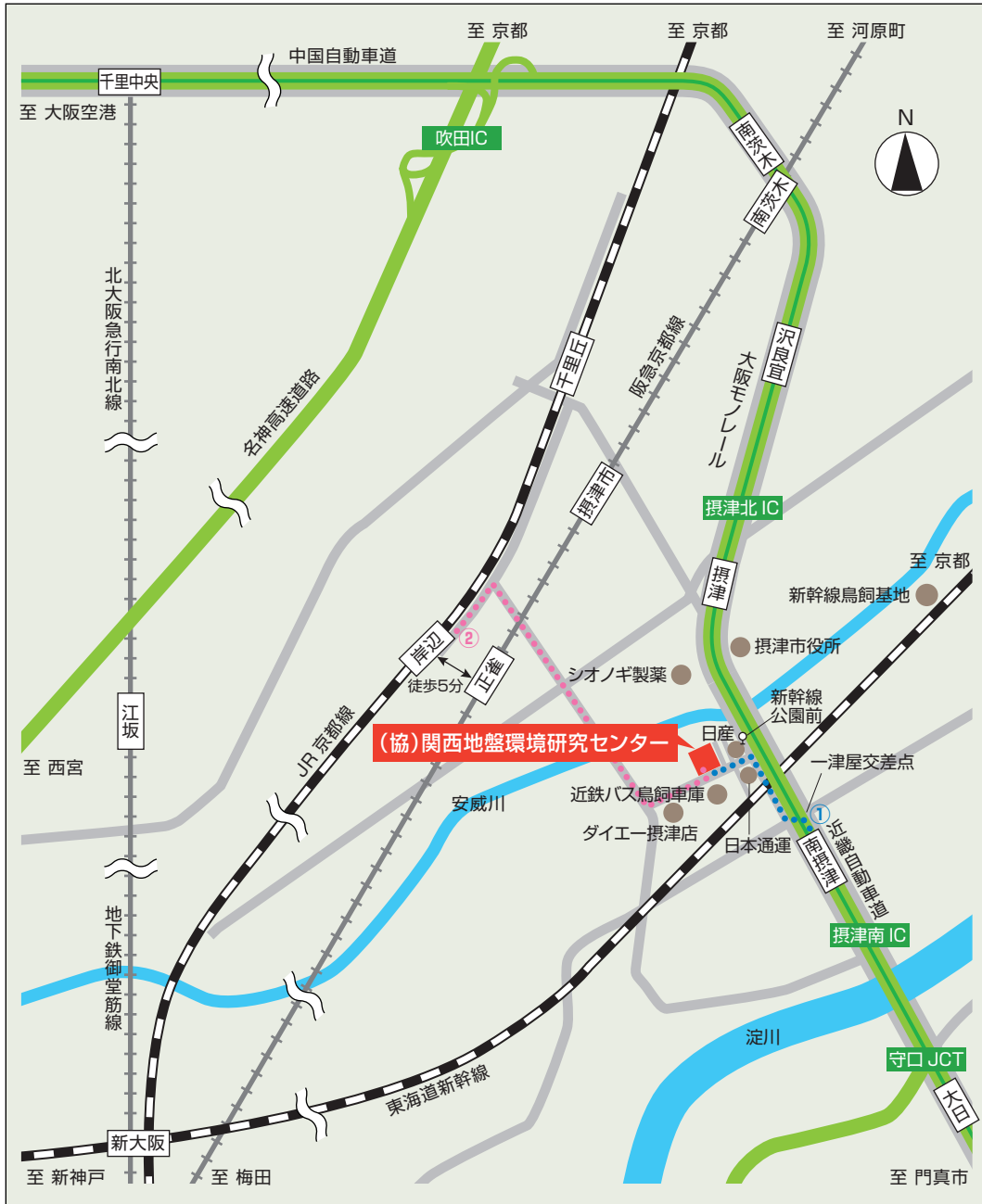
印刷 千里丘印刷

FAX 06-6829-2256

e-mail info@ks-dositu.or.jp



<https://www.ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分 ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://www.ks-dositu.or.jp>